

<序 文>

小郡市は、北部・中南部における宅地開発や北東・中南部における工業団地の開発が相次いで行われ、現在福岡・久留米両市のベッドタウンとして日々発展を続けています。これに伴い、交通網の整備も着々と進行しつつあります。

今回ここに報告いたします「大保西小路遺跡4・5」は、個人住宅建設に先立って小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書です。遺跡は、三国丘陵からなだらかに伸びる沖積地であり、宝満川、口無川、高原川などによって形成された沖積台地上に築かれています。本遺跡が所在する大保区は、近年の開発に伴う発掘調査により中世を中心とした遺跡が多数発見されています。今回の発掘調査においても、中世に関する区画溝といった遺構、遺物を検出しております。これらの成果が大保区内における中世の村落形態の全体像を解明する一助となれば幸いです。

最後になりましたが、地権者さん、調査にご理解とご協力をいただいた周辺住民の皆様、現地作業にあたった地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に深く感謝を申し上げ、序文いたします。

平成 28 年 3 月 31 日
小郡市教育委員会
教育長 清武 輝

<例 言>

- 1、本書は、小郡市大保地内における個人住宅建築（宅地造成とは異なる）に伴い、小郡市教育委員会が平成 26 年度に発掘調査を行った大保西小路遺跡 4・5 の埋蔵文化財発掘調査の記録である。発掘調査は、平成 26 年度国庫補助事業として実施した。
- 2、整理作業は、平成 27 年度国庫補助事業として実施した。
- 3、遺構の実測、遺構の写真撮影は西江幸子が実施した。
- 4、遺物の実測は西江、製図は久住愛子、白木千里、宮崎美穂子、洗浄・復元には、衛藤知嘉子、佐々木智子、藤岡恵子、深町幸子、山川清日、永富加奈子ら諸氏に多大なる協力を得た。また、遺物の写真撮影は（有）システム・レコに委託した。
- 5、遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土座標第Ⅱ系（世界測地系）に則している。
- 6、本書で用いた標高は、東京湾平均海水面（T. P.）を基準としている。
- 7、本書で用いている略号は以下のとおりである。
溝：SD 土坑：SK 掘立柱建物：SB 竪穴状遺構：SC ピット：P
- 8、遺物・実測図・写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
- 9、本書の執筆・編集は西江が担当した。

本文目次

第1章 調査の経過と組織…………… 1	第3章 遺跡の成果
1. 調査の経緯・調査の経過	1. 大保西小路遺跡4…………… 3
2. 調査の体制	2. 大保西小路遺跡5…………… 12
第2章 位置と環境…………… 2	第4章 まとめ…………… 17

挿図目次

第1図 大保西小路遺跡4・5調査地位置図 (S = 1/2,500)
第2図 大保西小路遺跡4・5周辺遺跡分布図 (S = 1/25,000)
第3図 大保西小路遺跡4 遺構配置図 (S = 1/80)
第4図 大保西小路遺跡4 2号土坑実測図 (S=1/60)
第5図 大保西小路遺跡4 3号・4号土坑実測図 (S = 1/40)
第6図 大保西小路遺跡4 1号溝実測図 (S=1/40)
第7図 大保西小路遺跡4 1号竪穴状遺構実測図 (S = 1/60)
第8図 大保西小路遺跡4 2号土坑出土遺物実測図 (S=1/4)
第9図 大保西小路遺跡4 2号・4号土坑、1号竪穴状遺構出土遺物実測図 (22 : S=1/2、その他 : S=1/4)
第10図 大保西小路遺跡4 1号溝出土遺物実測図 (S=1/4)
第11図 大保西小路遺跡5 遺構配置図 (S=1/80)
第12図 大保西小路遺跡5 1号掘立柱建物実測図 (S=1/60)
第13図 大保西小路遺跡5 1号溝、1号土坑実測図 (S=1/40)
第14図 大保西小路遺跡5 出土遺物実測図 (S=1/4)
第15図 大保西小路遺跡4・5 遺構配置図 (S=1/100)
第16図 大保西小路遺跡3・4・5 遺構変遷図 (S=1/400)

表目次

大保西小路遺跡4・5出土遺物観察表

図版目次

図版1 [大保西小路遺跡4]	[大保西小路遺跡5]
①調査区全景 (東側から)	⑩調査区全景 (東側から)
②2号土坑南北ベルト土層断面 (西側から)	⑪1号掘立柱建物、1号土坑完掘 (東側から)
③1号溝、3号・4号土坑北壁 土層断面 (南側から)	⑫1号溝完掘 (西側から)
④1号竪穴状遺構、1号溝南壁土層断面 (北側から)	⑬1号溝完掘 (東側から)
⑤2号土坑完掘 (北側から)	⑭1号土坑南壁土層断面 (北側から)
⑥1号溝ベルト土層断面 (南側から)	⑮1号溝ベルト土層断面 (西側から)
⑦1号竪穴状遺構完掘 (北側から)	図版2 大保西小路遺跡4 出土遺物
⑧3号・4号土坑完掘 (東側から)	大保西小路遺跡5 出土遺物
⑨1号溝完掘 (北側から)	

第1章 調査の経過と組織

1. 調査の経緯・調査の経過

【大保西小路遺跡4】

本遺跡の調査は小郡市三沢字権道38-6における個人住宅建設に伴い、平成26年9月25日付で埋蔵文化財の有無に関する照会（事前審査番号4073）が提出されたことに始まる。小郡市教育委員会文化財課では、東側の隣接地において遺跡を確認していることから、その旨を開発者側に伝えた。これを受けて開発に先立った協議を行い、平成26年度国庫補助事業の一環として建物建設部分の発掘調査を実施、翌年度に調査報告書を刊行することで同意を得た。調査経過は下記のとおりである。

平成26年10月8日表土剥ぎ開始 9日発掘作業員導入、遺構検出・掘削開始、以後随時遺構掘削、記録図面作成、写真撮影を実施 20日全景写真撮影 20日遺跡全体図作成（～21日） 23日埋め戻し実施 24日現場引き渡し、完了 以後、図面・遺物整理作業及び報告書作成実施

【大保西小路遺跡5】

本遺跡の調査は小郡市三沢字権道38-5における個人住宅建設に伴い、平成26年10月14日付で埋蔵文化財の有無に関する照会（事前審査番号4080）が提出されたことに始まる。小郡市教育委員会文化財課では、東側の隣接地において遺跡を確認していることから、その旨を開発者側に伝えた。これを受けて開発に先立った協議を行い、平成26年度国庫補助事業の一環として建物建設部分の発掘調査を実施、翌年度に調査報告書を刊行することで同意を得た。調査経過は下記のとおりである。

平成26年10月30日表土剥ぎ開始（～31日） 11月4日発掘作業員導入、遺構検出・掘削開始、以後随時遺構掘削、記録図面作成、写真撮影を実施 7日全景写真撮影 10日遺跡全体図作成 11日埋め戻し実施 13日現場引き渡し、完了 以後、図面・遺物整理作業及び報告書作成実施

2. 調査の体制

大保西小路遺跡4・5の調査の体制は、以下のとおりである。

〔平成26・27年度〕

小郡市教育委員会

教育長	清武 輝
教育部長	佐藤 秀行
文化財課長	片岡 宏二
係長	柏原 孝俊
技師	西江 幸子（調査・整理担当）

〔発掘作業従事者〕

大保西小路遺跡4：草場誠子、土井久江、
深見篤志、松永康弘
（敬称略）
大保西小路遺跡5：草場誠子、土井久江、
松永康弘（敬称略）



第1図 大保西小路遺跡4・5調査地位置図

(S = 1/2,500)

第2章 位置と環境

小郡市は、中央部を南北に宝満川が流れ、北西部に通称三国丘陵、北東部に花立山（標高130.8m）から伸びる丘陵があり、南側は緩やかに下る平坦な台地へ移行し、筑後平野へと連なる。

大保西小路遺跡4・5（1）は、三国丘陵からなだらかに伸びる低台地の縁辺部に位置し、本遺跡周辺の西鉄沿線側は、宝満川周辺よりも標高が高い。

大保西小路遺跡は、これまでに3回調査が行われている。第1次調査では、14～16世紀に相当する鞆羽口や鋳型、鉄滓等鍛冶関連の遺物・遺構が発見された（2：市報告99集）。第2次調査では、15～16世紀に相当する大型の土坑が発見された（2：市報告257集）。第3次調査では、14～16世紀に相当する炉や大溝を検出した（1：市報告305集）。以上のように、大保西小路遺跡包蔵地内では鍛冶関連の遺構・遺物が多数検出されていることから、中世における鍛冶生産に関する復元が期待されている地域である。以下では、本遺跡の周辺地域に分布する中世の遺跡を中心に歴史的環境の概要を示す。

小郡市内の中世の拠点集落として稲吉元矢次遺跡と西島遺跡3（3：市報告87集）がある。本遺跡が位置する大保区は、小郡市内でも特に中世に関する遺跡が多数発見されている地区である。これまでの発掘調査より、大保龍頭遺跡（4：市報告135・140・183・187集）が11世紀後半から集落形成を開始し、12世紀後半～13世紀前半で最盛期を迎え、14世紀前半で衰退する。こうした状況は、拠点集落である稲吉元矢次遺跡や西島遺跡でも同様であり、これらの遺跡周辺に立地する大保横枕遺跡2（5：市報告260集）の遺構変遷や三沢畝道町遺跡（6：市報告72集）の周溝墓からも窺える。その後、14～16世紀にかけては、大保西小路遺跡や三沢寺小路遺跡（7・8・9・10：市報告117・158・222・229・263集）、三沢権道遺跡（11・12：市報告82・125集）、大保毎々遺跡（13：市報告223集）を中心とした地域で集落が形成されており、人々の居住区域の移動が考えられる。こうした居住区域の移動は、大保区だけでなく小郡市内全体でも生じている。この背景には1359年の大保原合戦が指摘されている。また、三沢寺小路遺跡では、従来大保原合戦の戦死者を葬った善風寺跡地に比定される伝承が残る地域であったが、近年の発掘調査成果より、大溝に沿った土壌墓群や大量の瓦の出土、大溝の検出などがあり、寺の全貌が少しずつ検討可能となった。

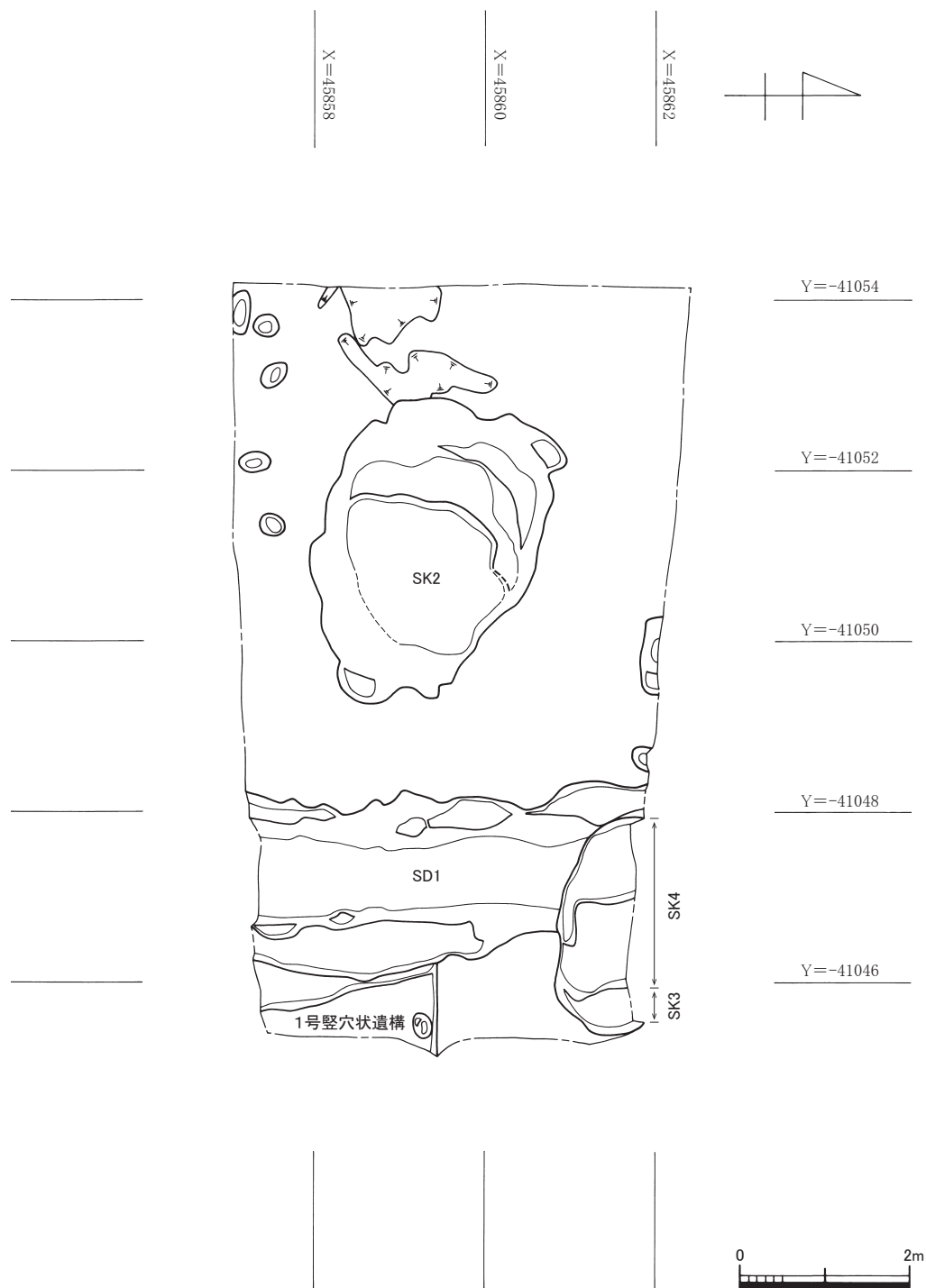
大保区は、中世から江戸時代初期にかけて人々の往来道であった旧筑前街道（14）が、御勢大靈石神社前の道を南北方向に通っており、人々の往来の多い土地であったことが窺える。また、御勢大靈石神社に関係する小字名も多々残っていることから、門前町の性格の検討を含め、街道と人々の暮らしを中心に中世村落形態の全体像を探求することが、今後求められよう。



第2図 大保西小路遺跡4・5周辺遺跡分布図（S = 1/25,000）

第3章 調査の成果

1. 大保西小路遺跡4



第3図 大保西小路遺跡4 遺構配置図 (S = 1/80)

【調査の概要】

大保西小路遺跡4は、宝満川右岸、小郡市北部の三国丘陵から南へとなだらかに伸びる低台地の縁辺部に位置し、これまで計3次の調査が実施されている。中世の遺構を中心に、鍛冶に関係すると考えられる遺構や遺物が多数出土していることが特筆される。

今回の調査対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地の北西側よりに相当する。建物建設部分のみであったため、東西8.9m、南北5.3mの非常に小さな範囲である。遺構検出面の標高は18.4m前後、現地表から約0.8～1.0m下る高さで確認している。出土遺構は溝1条、井戸と考えられる遺構1基、土坑2基、竪穴状遺構1基である。遺物は、井戸と考えられる遺構を除き、ほとんど出土しなかった。

【遺構と遺物】

①土坑

2号土坑（第4図、図版1）

調査区の中央部西よりにおいて検出した土坑である。平面形は2.65m×3.4m、現状の深さ1.3mを測る。東西ベルト土層の14層の淡黄色砂層が出現した段階で手掘りを終了させたが、その後重機でさらに掘り進めたところ、14層の下より黒褐色土層、その下より淡黄色砂層が出現した。そして、壁面も淡黄色砂層が出現した段階から黄褐色土層から淡黄色砂層へと変化した。このことから、土坑というよりも井戸の可能性が想定される。

なお、遺物は上面より多数出土した。出土遺物は、土師器を中心に鉄器等多数出土したが、小片が多く、図化するに至ったものは少ない。

出土遺物（第8・9図、図版2）

1～13は土師器の小皿である。底部は糸切りが施されているが、5・7のみ板押しも確認できた。底径は5.8～8.8cmのものが多く、器高は3cm前後の高いものと2cm以下の低いものがある。13は底部に内側から外側に向けて焼成前に穿孔した痕跡がある。14は須恵質のすり鉢の底部片である。外面にはハケメ調整が施され、内面には単位不明のすり目を確認した。15は土師器のすり鉢の口縁部片である。口縁端部は胴部の厚さより肥厚し、胴部上半で一度ゆるく屈曲してから底部へと直線的にすぼまる。注口の約1/3が残存している。16～19は土師器の鍋である。粘土紐貼り付け等により口縁端部を肥厚させ、内面にはハケメ調整を施している。18・19の外面全面にはコゲが付着している。20は石鍋である。直線的に外斜する胴部に、口縁部はわずかに直立気味に立ち上がる。細い断面三角形の鏝がわずかに形成されている。外面調整は縦位の短冊状の工具痕跡を確認した。内外面にコゲが付着し、特に内面には被熱を受けたためか、破裂痕を多数確認した。21は砥石であり、砥面を4面確認した。22は鉄器である。長さ5.8cm、幅2.5cm、厚さ0.2cm、重さ21.4gであり、残存する部分の鉄器の端をU字状に折り曲げている。摘鎌等工具と考えられるが、小片のため断定はできない。

以上の形態的特徴より、2号土坑は、14世紀後半～15世紀前半の日常土器を中心に廃棄された遺構と想定される。

3号土坑（第5図、図版1）

調査区北東壁際で検出し、1号溝に切られ、4号土坑を切り、調査区外へ延びる。4号土坑まで掘削したのち、土層断面より3号土坑の存在を確認したため、平面形では掘りすぎた状態でしか記録ができなかった。しかし、現状の平面形は1.0m×0.9m、深さ1.0mを測る。

出土遺物は、土器片を数点出土したが、小片の為図化するに至らなかった。

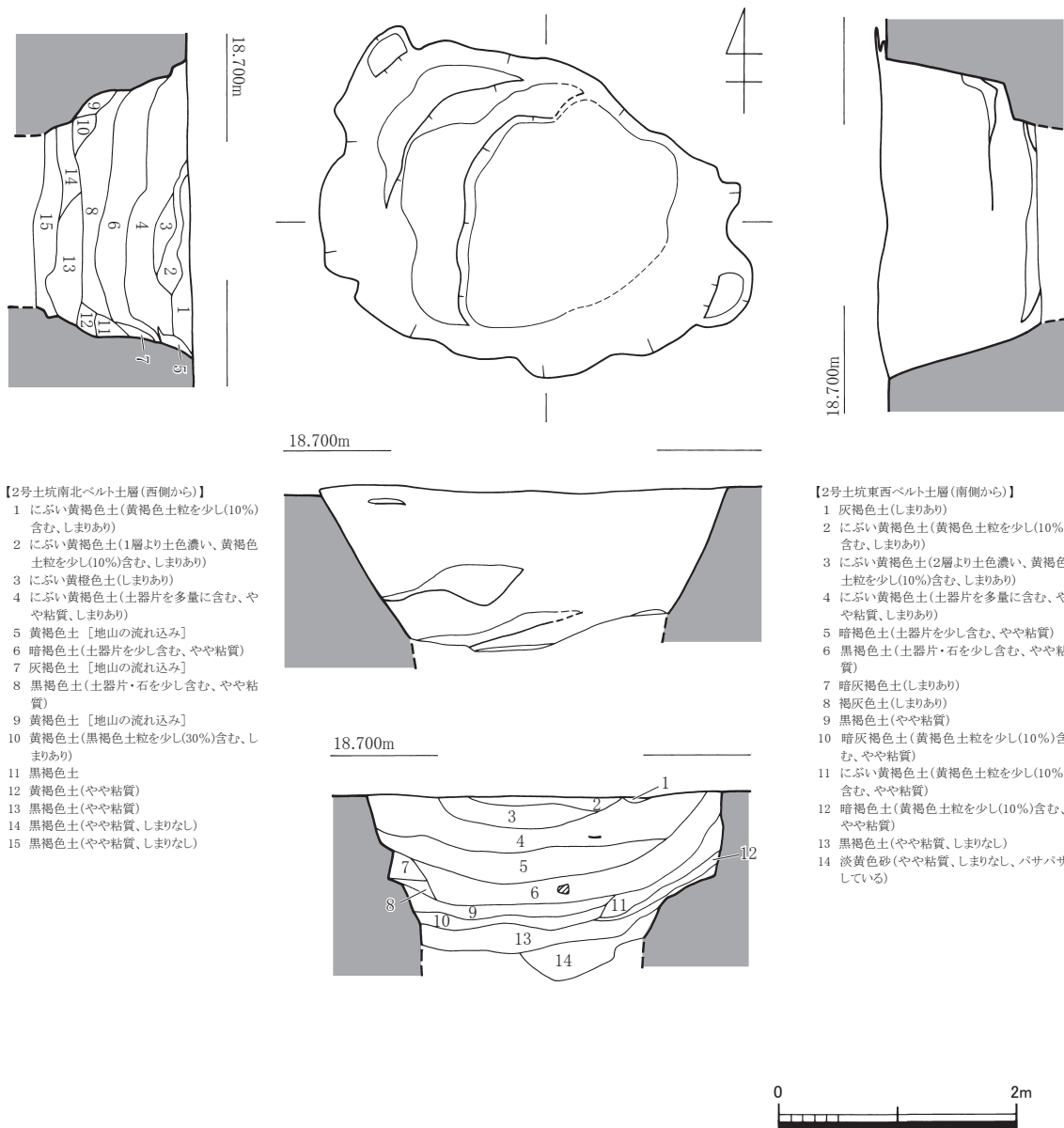
4号土坑（第5図、図版1）

調査区北東壁際で検出し、1号溝と3号土坑に切られ、調査区外へ延びる。現状の平面形は1.9m×0.85m、深さ0.9mを測る。西側に向かって深く掘り込まれている。

出土遺物は、土師器が数点出土したが、小片の為図化するに至ったものは少ない。

出土遺物（第9図）

23は土師器の鍋の口縁部片である。口縁端部を粘土紐貼り付け等により突出させている。内外面ともに磨滅が激しく、調整を確認できなかった。



第4図 大保西小路遺跡4 2号土坑実測図 (S=1/60)

②溝

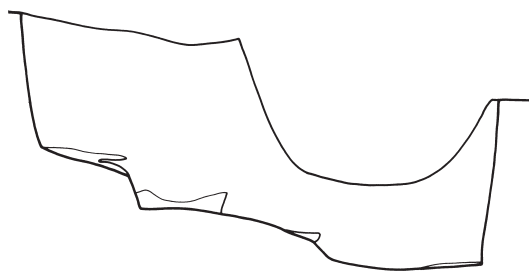
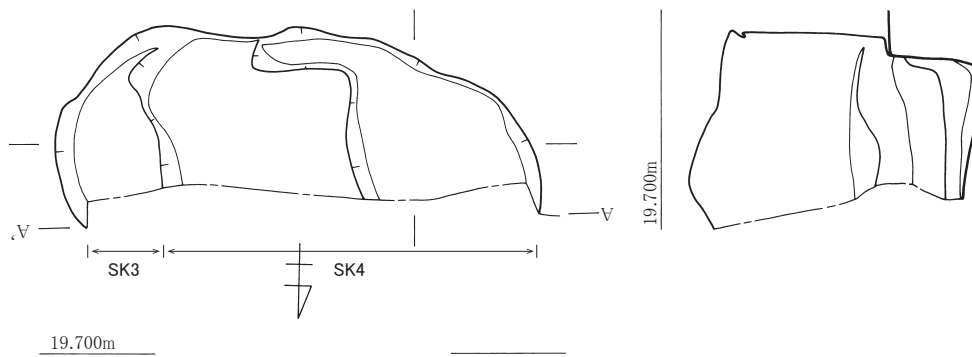
1号溝 (第6図、図版1)

1号溝は、主軸がほぼ南北方向で直進する溝である。溝上端の幅は1.6～2.05m、下端幅は0.7～0.9m、深さ約0.74mを測り、延長4.65mを検出した。断面形状は、逆台形状をなすが、部分的に東側にテラス部をもつ箇所もある。土層の堆積状況は、レンズ状の純堆積を示しており、水成堆積を示す部分は確認されない。遺物は少量であるが、覆土から土師器破片が出土している。

出土遺物は、土師器を中心に出土したが、小片であるため図化するに至ったものは少ない。

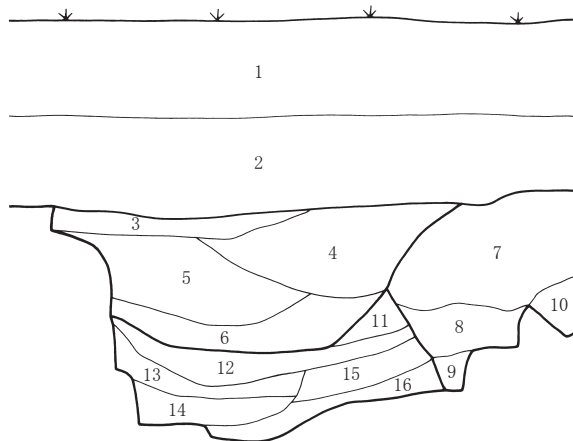
出土遺物 (第10図、図版2)

25～28は土師器の小皿である。底部は糸切りが施され、底径は5.6～6.8cm、器高は28を除き2.0cm以下と低いことから、28は25～27と異なり器高の高い小皿の形式と言える。29は須恵質のすり鉢の口縁部片である。内外面ともに磨滅しているが、内面には単位不明のすり目を確認している。30～32は土師器の鍋



A 19.700m A'

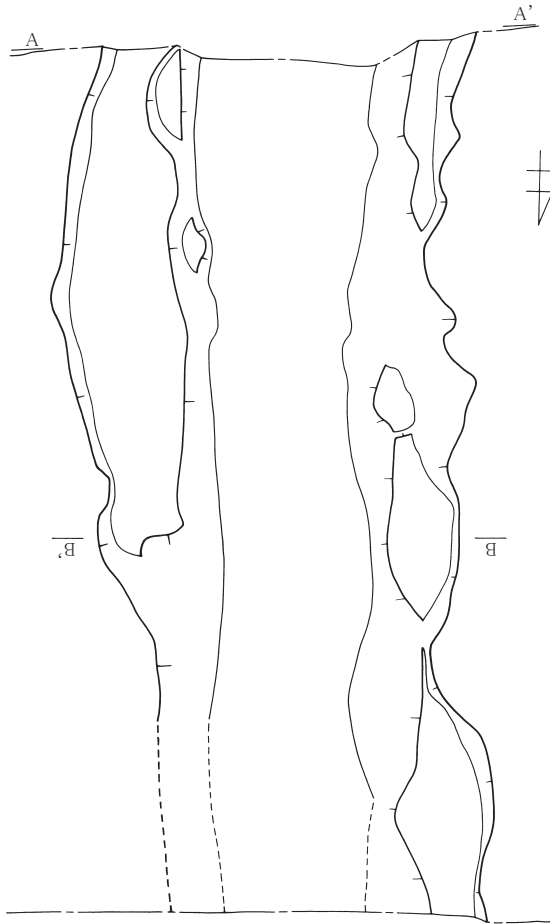
- 【3号・4号土坑・1号溝北壁土層(南側から)】
- 1 黄橙色砂【整地層】
 - 2 褐灰色土【整地層】
 - 3 にぶい黄褐色土(やや粘質)【1号溝】
 - 4 にぶい黄褐色土(黒褐色土粒を少し(5%)含む、やや粘質)【1号溝】
 - 5 にぶい黄褐色土(やや粘質)【1号溝】
 - 6 にぶい黄褐色土(やや粘質)【1号溝】
 - 7 黒褐色土(黄褐色土粒を少し(10%)含む)【3号土坑】
 - 8 黒褐色土(やや粘質)【3号土坑】
 - 9 黒褐色土(黄褐色土粒を多く(50%)含む)【3号土坑】
 - 10 にぶい黄褐色土(やや粘質)【3号土坑】
 - 11 にぶい黄褐色土(6層より土色濃い、やや粘質)【4号土坑】
 - 12 にぶい黄褐色土(やや粘質)【4号土坑】
 - 13 にぶい黄褐色土(やや粘質)【4号土坑】
 - 14 黄褐色土(やや粘質)【4号土坑】
 - 15 灰黄褐色土(やや粘質)【4号土坑】
 - 16 灰黄褐色土(黄褐色土粒を少し(10%)含む、やや粘質)【4号土坑】



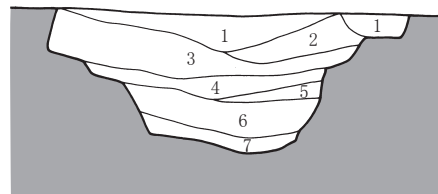
第5図 大保西小路遺跡4 3号・4号土坑実測図 (S = 1/40)

の口縁部片である。粘土紐貼り付け等により口縁端部をやや肥厚させ、底部に向かって直線的にすぼまる。内面にはハケメ調整が施されている。33は瓦質土器の湯釜である。口縁部は直線的に伸び、頸部屈曲部付近の胴部には1条の突帯がある。胴部中位にも方形突帯を貼りつけていたと想定されるが、端部欠損のため現状は不明である。34は青磁の碗である。口縁部が短く外反し、内外面に釉薬が施されているが、無文である。龍泉窯系青磁と考えられる。

以上の形態的特徴より、1号溝は、13世紀後半～14世紀中葉頃から日常土器の廃棄がなされ始め、15世紀に埋まっていったと想定される。



B 18.700m

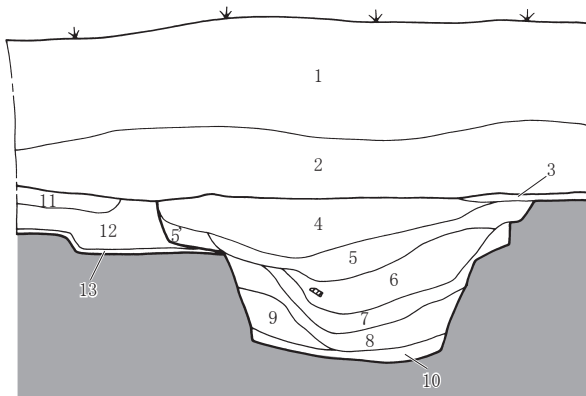


【1号溝ベルト土層(北側から)】

- 1 にぶい黄褐色土(やや粘質)
- 2 褐灰色土(黄橙色粒をやや多く(60%)含む)
- 3 灰黄褐色土
- 4 褐灰色土(黄橙色土粒をやや多く(50%)含む)
- 5 褐灰色土(やや粘質)
- 6 にぶい黄褐色土(やや粘質)
- 7 にぶい黄褐色土(淡黄橙色土粒を少し(20%)含む、やや粘質)



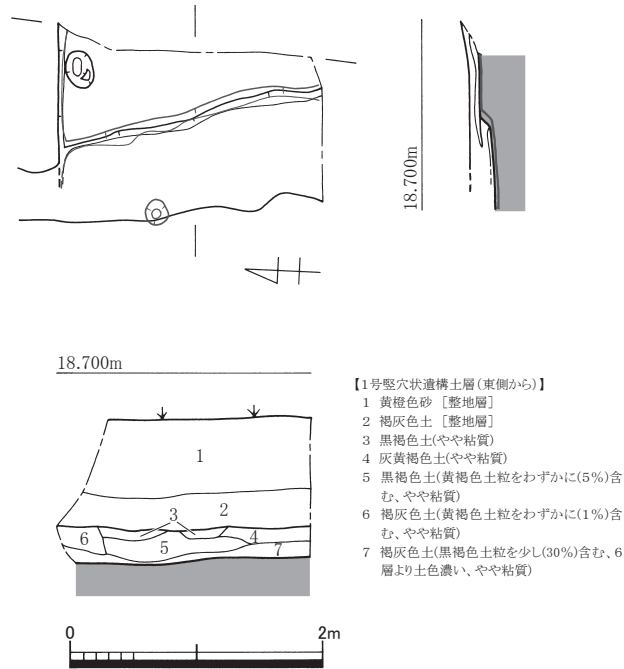
A 19.600m



【1号溝南壁土層(北側から)】

- 1 黄褐色砂 [整地層]
- 2 褐灰色土(礫含む) [整地層]
- 3 黒褐色土
- 4 にぶい黄褐色土(やや粘質) [1号溝]
- 5 灰黄褐色土(黒褐色土粒を少し(10%)含む、やや粘質) [1号溝]
- 5' にぶい黄褐色土(4層より土色濃い、やや粘質) [1号溝]
- 6 灰黄褐色土(褐灰色土粒をやや多く(40%)含む、石含む、やや粘質) [1号溝]
- 7 にぶい黄褐色土(やや粘質) [1号溝]
- 8 にぶい黄褐色土(やや粘質) [1号溝]
- 9 にぶい黄褐色土(8層より土色薄い、やや粘質) [1号溝]
- 10 にぶい黄褐色土(黄橙色土粒を少し(15%)含む、やや粘質) [1号溝]
- 11 灰黄褐色土(やや粘質) [1号堅穴状遺構]
- 12 褐灰色土(黄橙色土粒を少し(20%)含む、やや粘質) [1号堅穴状遺構]
- 13 黄褐色土(黒褐色土粒をやや多く(50%)含む) [1号堅穴状遺構]

第6図 大保西小路遺跡4 1号溝実測図 (S=1/40)



第7図 大保西小路遺跡4 1号竖穴状遺構実測図 (S = 1/60)

③ 竖穴状遺構

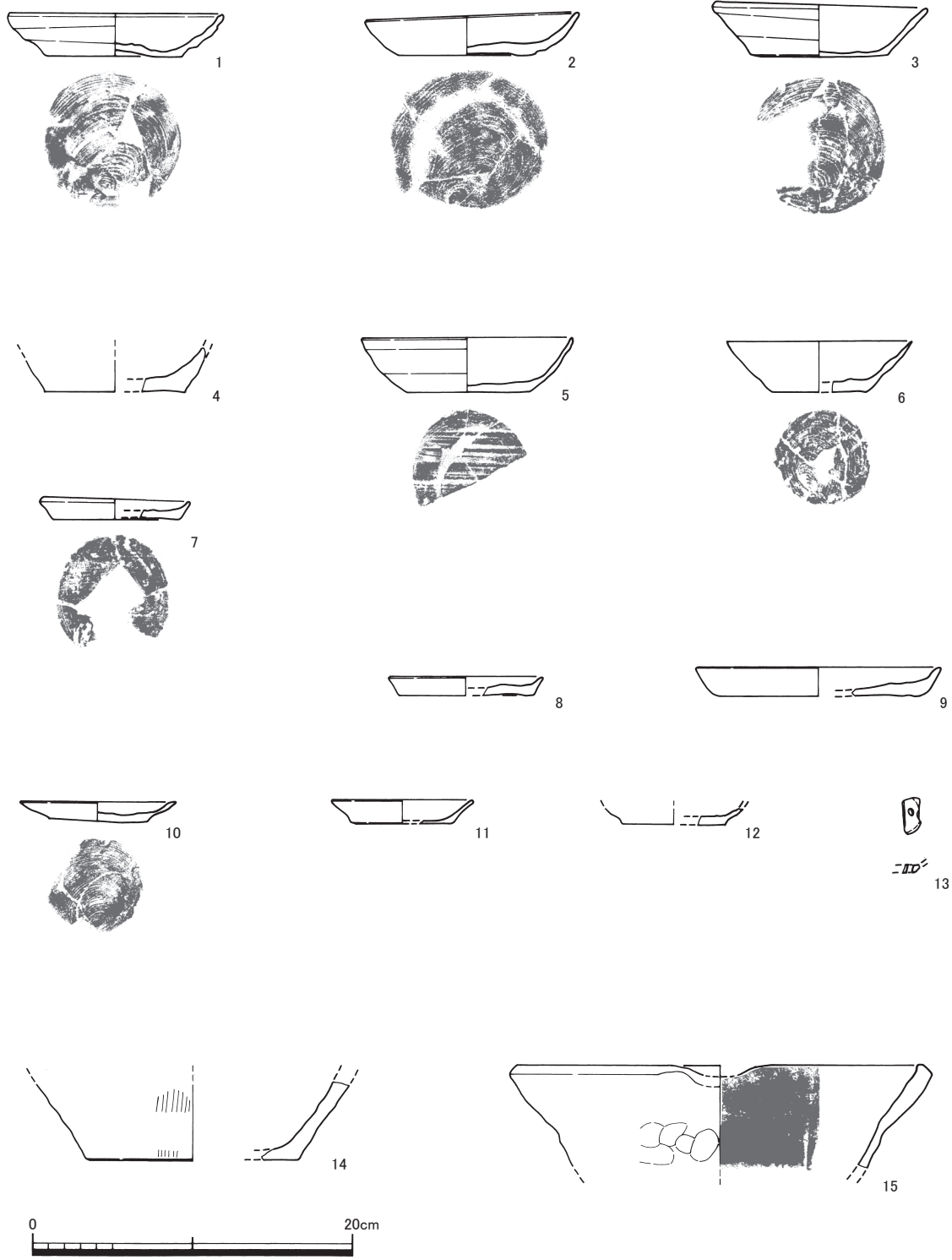
1号竖穴状遺構 (第7図、図版1)

調査区南東壁際で検出し、調査区外へ延びる。現状の平面形は2.1 m × 1.55 m、検出面からの深さは最大約20cmを測る。遺構の東側には幅95cm以上、高さ10cmの段掘りで構築したベッド状遺構を検出している。床面全体に黄褐色粘質土で厚さ1～2cmの貼床を施していた。

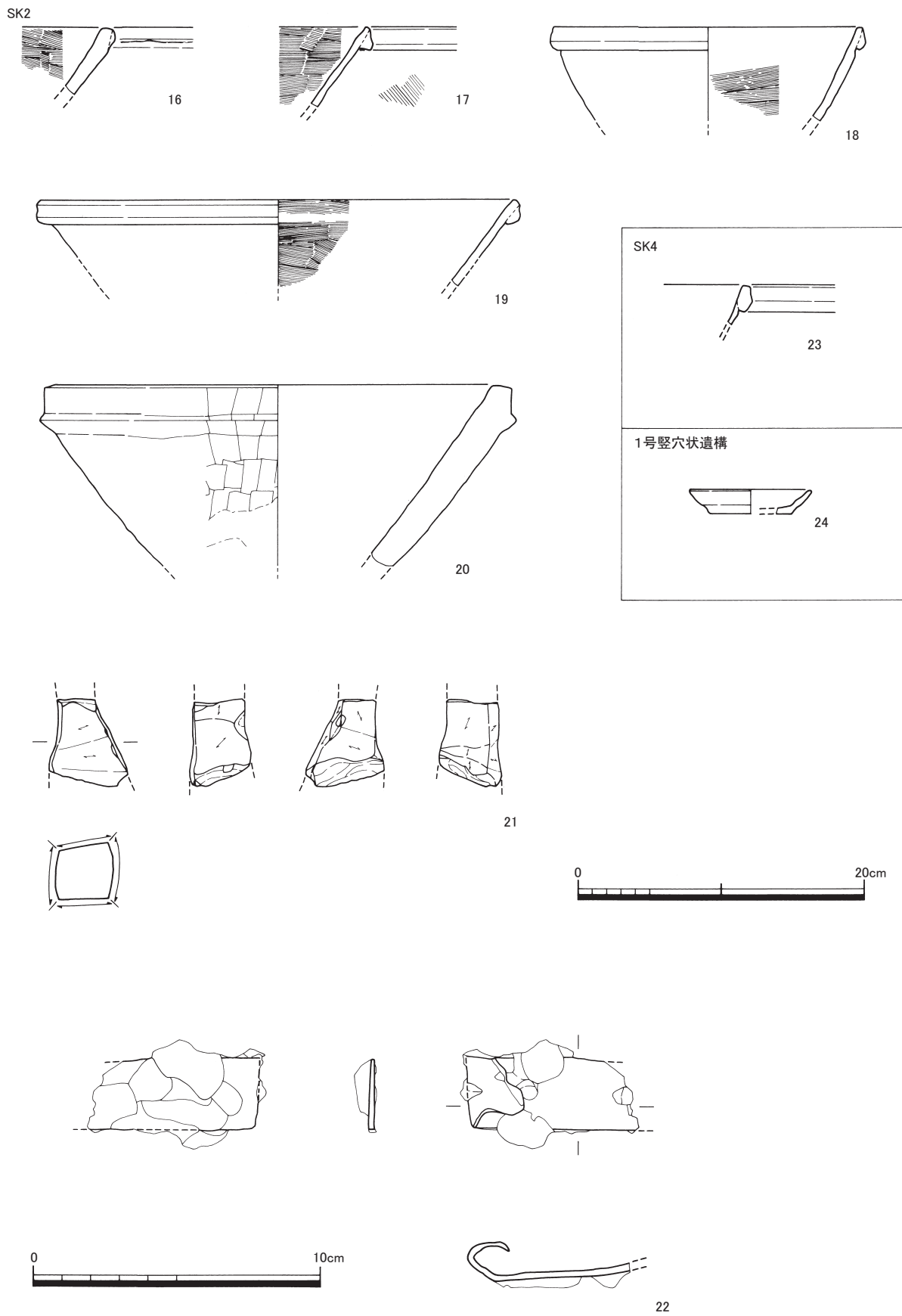
出土遺物は、土師器の小片等を数点確認したが、図化するに至ったものは少ない。

出土遺物 (第9図)

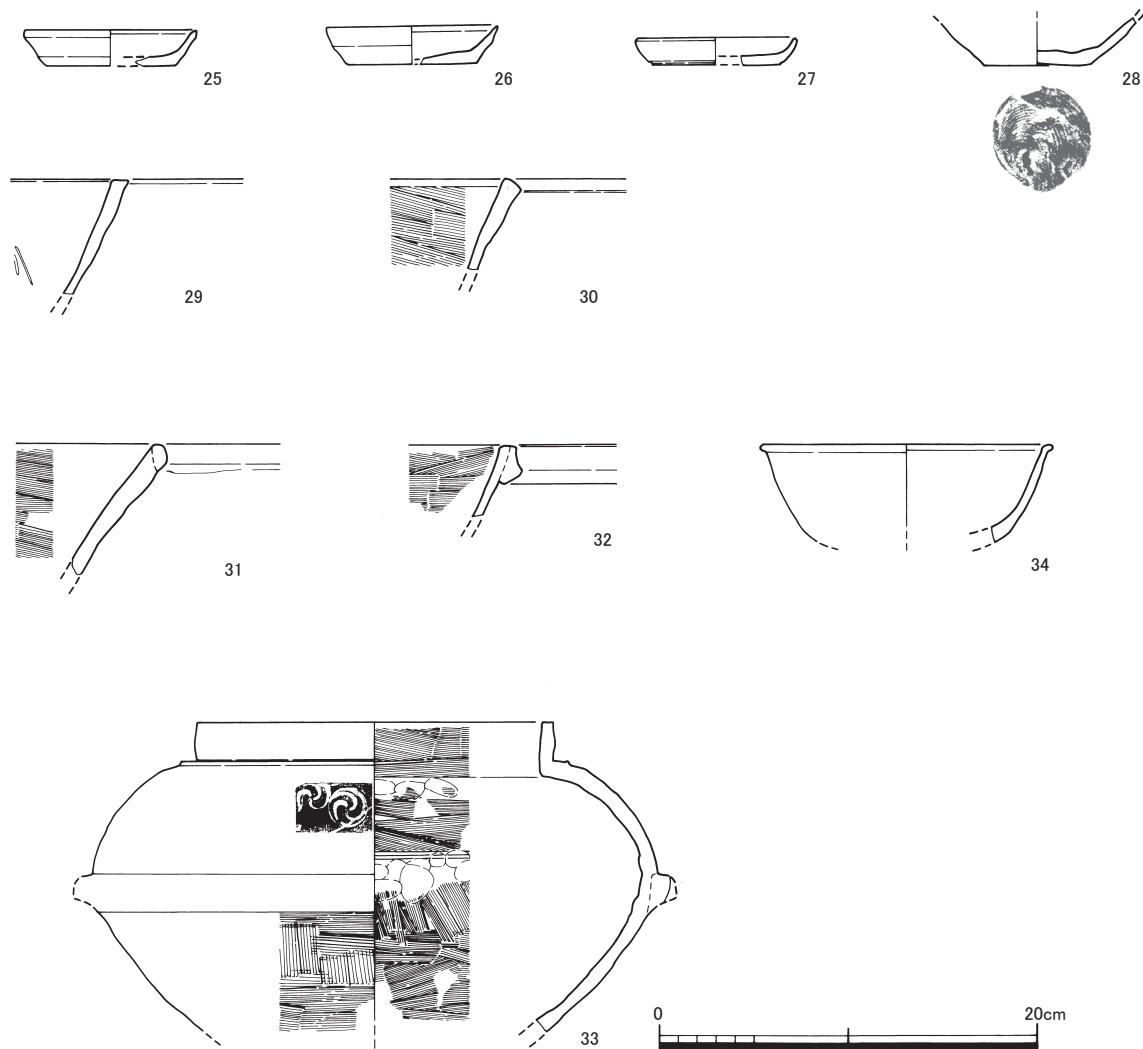
24は土師器の小皿である。底径5.6cm、器高1.7cmと規格は小さく、底部は糸切りが施されている。



第8図 大保西小路遺跡4 2号土坑出土遺物実測図 (S=1/4)



第9図 大保西小路遺跡4 2号・4号土坑、1号竖穴状遺構出土遺物実測図 (22：S=1/2、その他：S=1/4)

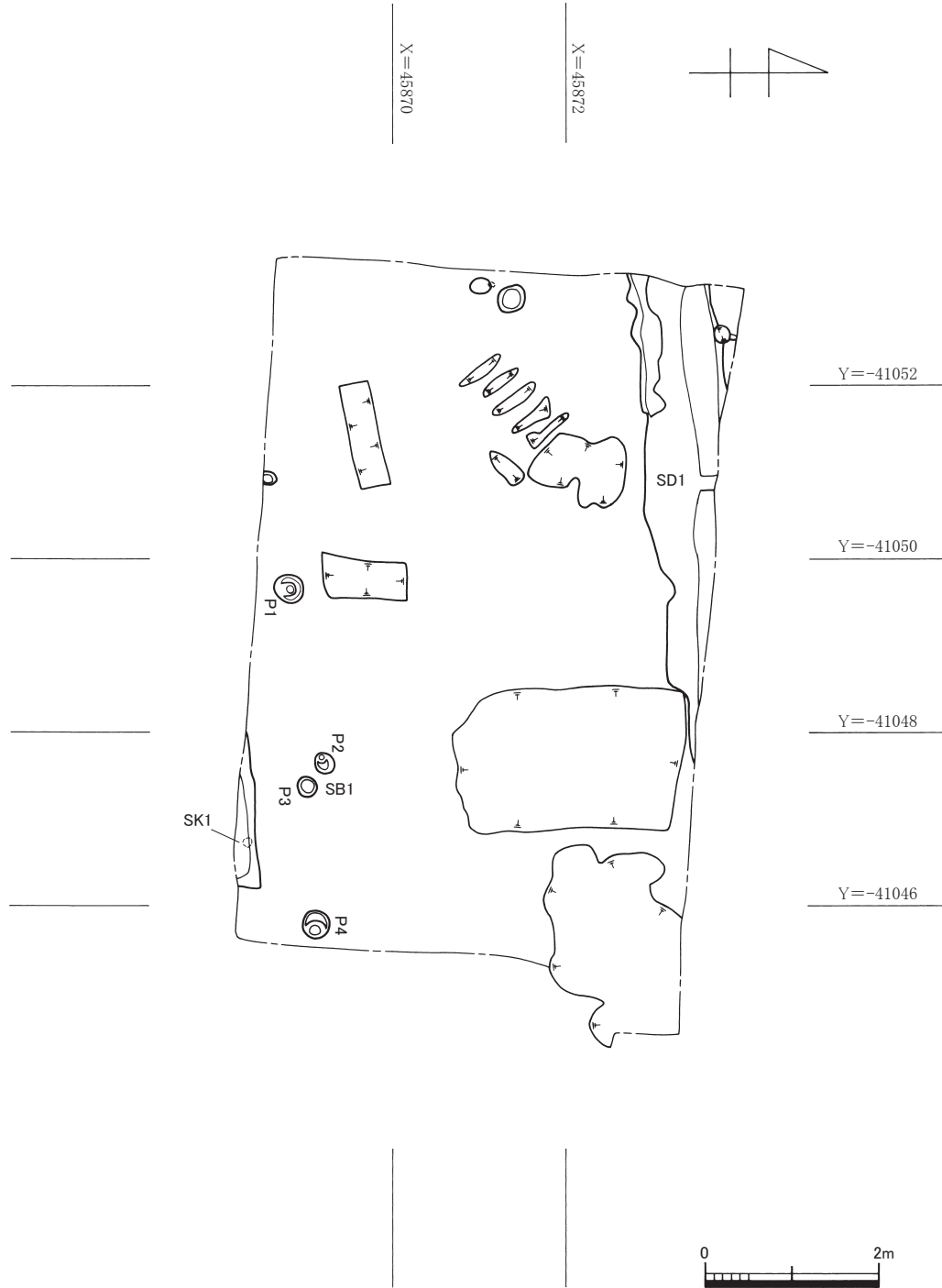


第 10 図 大保西小路遺跡 4 1号溝出土遺物実測図 (S=1/4)

【小結】

大保西小路遺跡 4 調査地内は、大型の遺構を数基検出したのみであり、遺構密度は高くない。しかし、2号土坑や1号溝より、今回の調査区内では数多くの遺物を検出した。出土した遺物を検討すると、2号土坑より1号溝の方がやや古相を呈する。また、3号・4号土坑は、1号溝に切られているが、3号・4号土坑の遺構の規格は2号土坑に類似することから、2号土坑使用時に比定できる可能性が高い。2号土坑は、堆積土層状況より素掘りの井戸の可能性が想定できる。また、2号土坑からは、内面も被熱を受けた石鍋が出土しており、今回の調査区の東側に隣接する大保西小路遺跡 3 において炉が2基検出できていることも加味すると、日常用の調理具というより、鍛冶に使用していた器の可能性が高いと考えられる。というのも、内面に被熱により生じたと考えられる破裂痕が数多くみられ、中世の集落遺跡から出土する石鍋に見られるような青みがかった石材の質感をほとんど感じる事ができないほど、内外面共にコゲが付着しているからである。炉に関する考察は大保西小路遺跡 3 を参照いただきたい。また、1号溝は、流路方向がほぼ正北位に伸びており、幅が上端で1.6～2.05m、深さも現況面で0.74mあることから、区画溝としての性格も想定できる。大保西小路遺跡 6 では、小字の区画溝が少なくとも中世より機能していたことが判明していることから、今回の調査区の1号溝も現在の小字の区画溝と対比し、検討することが必要となろう。

2. 大保西小路遺跡 5



第 11 図 大保西小路遺跡 5 遺構配置図 (S=1/80)

【調査の概要】

大保西小路遺跡5は、宝満川右岸、小郡市北部の三国丘陵から南へとなだらかに伸びる低台地の縁辺部に位置し、これまで計4次の調査が実施されている。中世の遺構を中心に、鍛冶に関係すると考えられる遺構や遺物が多数出土していることが特筆される。

今回の調査対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地の北西側よりに相当する。建物建設部分のみであったため、東西8.9m、南北5.3mの非常に矮小な範囲である。遺構検出面の標高は18.3m前後、現地表から約0.6m下る高さで確認している。出土遺構は掘立柱建物1棟、土坑1基、溝1条である。遺物は、ほとんど出土しなかった。

【遺構と遺物】

①掘立柱建物

1号掘立柱建物（第12図、図版1）

調査区の南東隅付近に位置し、標高は18.4mを測る。遺構の半分は調査区外に存在するため詳細は不明である。規模がわかるのは梁か桁と考えられる部分のみで、梁（桁）行4.0m、梁（桁）間1.7～2.3mを測る。柱掘り方は円形を基調とし、22～32cm、深さは10～61cmを測る。P2とP3はどちらが柱穴となるか不明のため、断面図では両方の断面を作成した。しかし、柱穴どうしの距離間隔から考えるとP2が柱穴である可能性が高い。4基のピットのうち2基で柱痕を確認した。柱の直径は約4cmを測る。

出土遺物は土器の小片が数点出土したのみであり、図化するに至ったものは少ない。

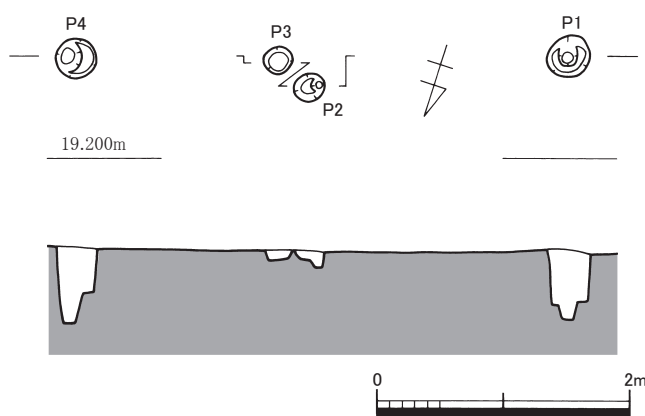
出土遺物（第14図、図版2）

1は土師器のすり鉢の底部片である。外面全面にコゲが付着しており、ハケメ調整が施されていた。内面には「4本1単位」のすり目が施されていた。

②土坑

1号土坑（第13図、図版1）

調査区の南東隅付近において検出した土坑である。平面形は1.74m×0.26m、現状の深さ0.22mを測る。北辺側の検出面から4～8cm下（第13図中で丸く色を付けている地点）において焼土が散在していた。



第12図 大保西小路遺跡5 1号掘立柱建物実測図（S=1/60）

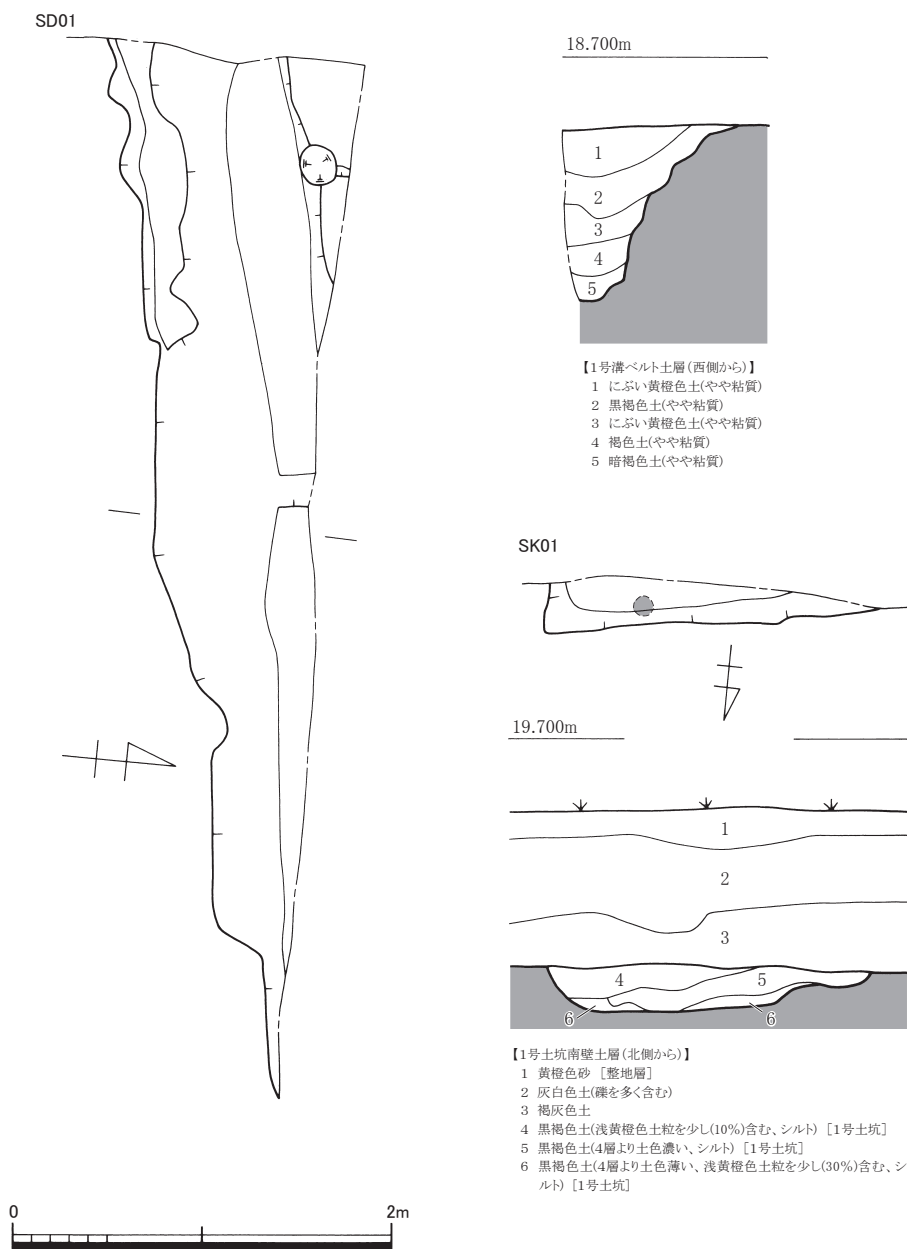
③溝

1号溝 (第13図、図版1)

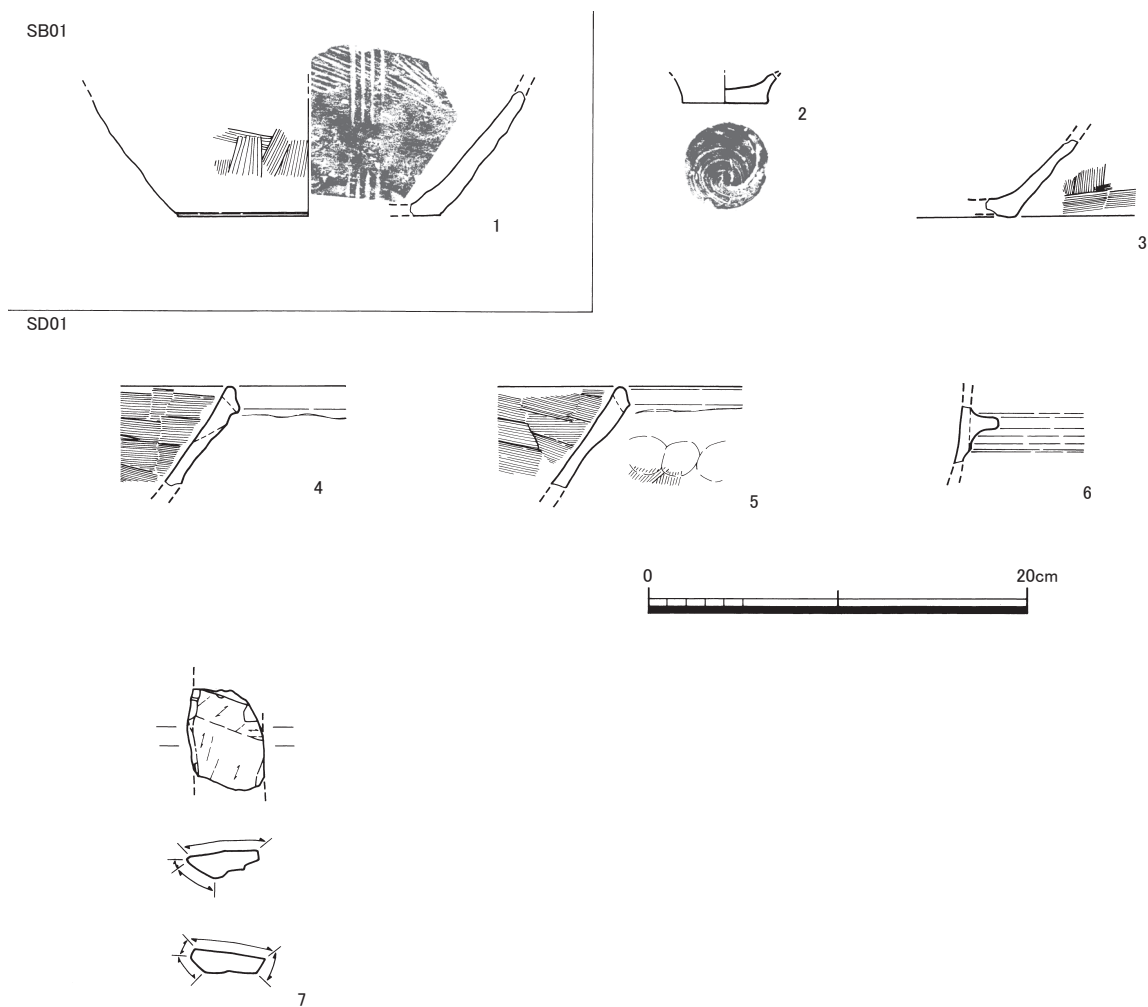
1号溝は、主軸がほぼ東西方向で直進する溝である。溝上端の幅は現状2.2～3.7m、下端幅は1.36m、深さ約1.01mを測り、延長5.5mを検出した。断面形状は、逆台形状をなす。土層の堆積状況は、レンズ状の純堆積を示しており、水成堆積を示す部分は確認されていない。しかし、溝底面の地山には鉄分がところどころ含まれていた。遺物は少量であるが、覆土から土師器の破片が出土している。

出土遺物 (第14図、図版2)

2は土師器の小皿である。底径4.6cmで、糸切りにより底部は切り離されている。3は土師器のすり鉢の底部片である。外面にはハケメが施され、内面には「5本1単位」のすり目が施されている。4・5は土師器の鍋の口縁部片である。粘土紐貼り付け等により口縁端部をやや肥厚させ、底部に向かって直線的にすぼまる。6は土師器の湯釜の胴部片である。7は砥石であり、一部欠損しているものの現状で3面の砥面を確認している。



第13図 大保西小路遺跡5 1号溝、1号土坑実測図 (S=1/40)

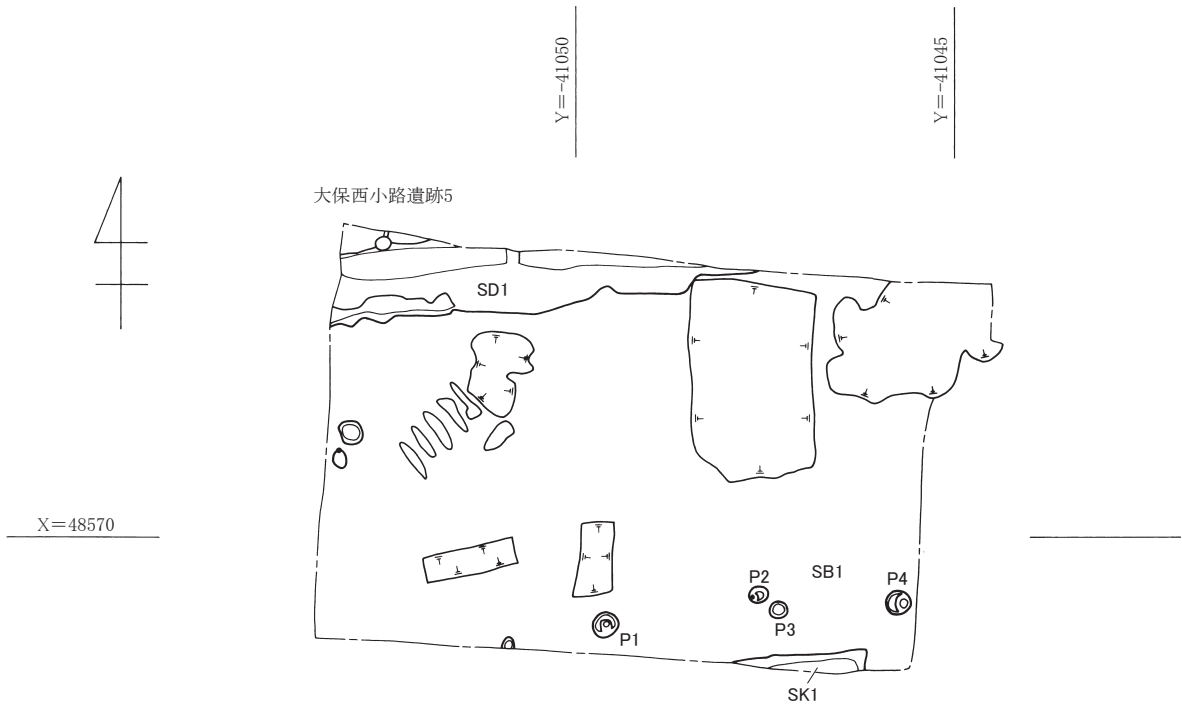


第 14 図 大保西小路遺跡 5 出土遺物実測図 (S=1/4)

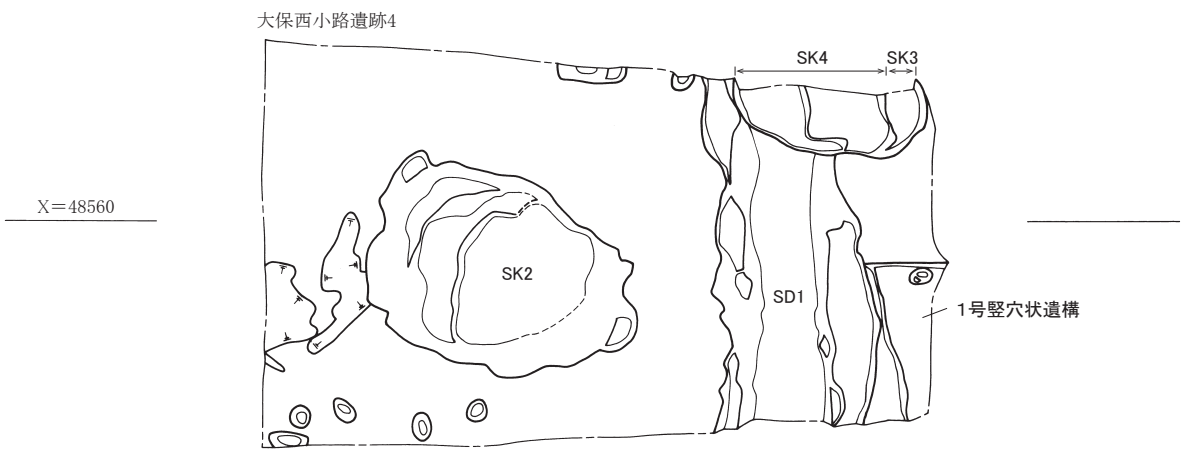
【小結】

大保西小路遺跡 5 調査地内は、攪乱が多く、遺構密度も低く、遺物もあまり出土しなかった。しかし、大保西小路遺跡 3 の 4 号溝の続きと思われる 1 号溝を調査区北壁付近で検出した。大保西小路遺跡 3 の 4 号溝は、覆土中に鉄滓が多数混入し、1 号溝の南側には隣接して 2 基の炉を検出していることから、鍛冶関係の廃棄物を投げ込んだ溝かと想定していた。しかし、この溝に続くと想定される今回の調査区の 1 号溝では、溝底面において鉄分が沈着している箇所を数か所検出したのみであり、鉄滓はほとんど検出できなかったことから、炉に伴う廃棄物の投げ込みは炉付近のみでなされていたと考えられる。一方、1 号溝は、流路方向がほぼ正北位に対して垂直に交わるよう伸びており、幅が上端で 2.2 ~ 3.7m、深さも現況面で約 1 m あることから、区画溝としての性格も想定できる。大保西小路遺跡 6 では、小字の区画溝が少なくとも中世より機能していたことがわかったことから、今回の調査区の 1 号溝も現在の小字の区画溝と対比し、検討することが必要となろう。

1 号溝以外には、1 号溝とほぼ同時代に比定できる 1 号掘立柱建物を検出しており、周辺遺構との精査から性格付けを行う必要がある。



X=48565



第 15 図 大保西小路遺跡 4・5 遺構配置図 (S=1/100)

第4章 まとめ

本報告書にて掲載している大保西小路遺跡4（以下4区）と大保西小路遺跡5（以下5区）の各調査区に関する歴史的考察については、第3章の各調査区の小結に記載している。よって、本章では、それらの小結で得た各調査区の歴史的事象に加えて東側に隣接する大保西小路遺跡3（以下3区）を含め、東西16m×南北33mの狭い範囲ではあるが、この地域の歴史的考察を行うこととする。

まず、各遺構の切り合い関係や出土遺物より時期が明確なものは、以下のとおりである。なお、今回の調査では、遺構の切り合い関係のみにより時期を特定したものは見当たらなかった。

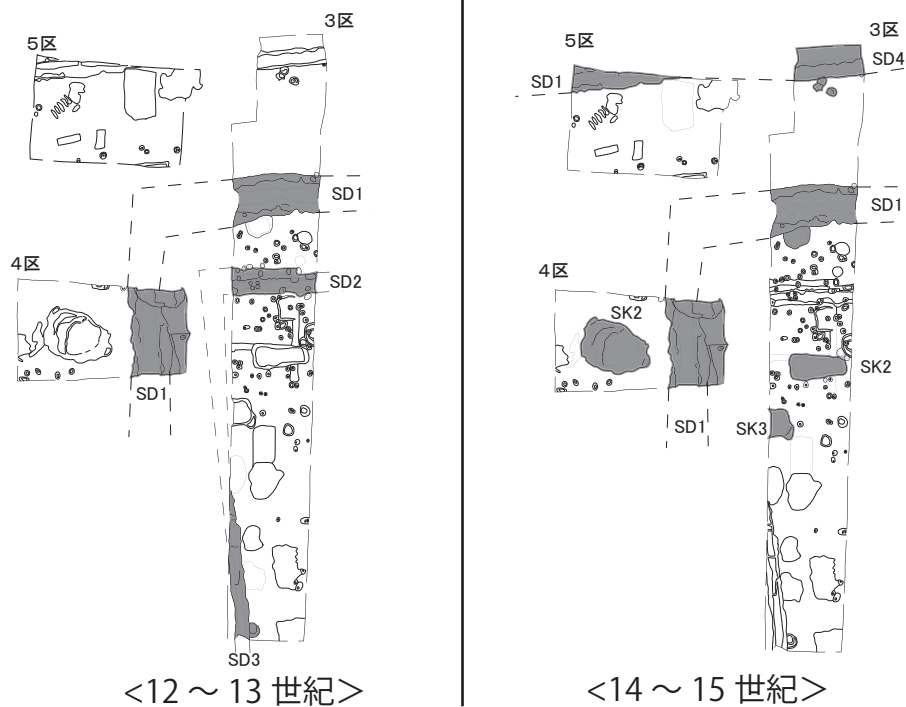
- 12世紀中頃～13世紀前半：3区2号溝、3区3号溝
- 13世紀：3区6号土坑（3区3号溝より古い）
- 14世紀前半～中頃：3区2号土坑、3区3号土坑、3区4号土坑
- 14世紀後半～15世紀前半：4区2号土坑、4区4号土坑（4区1号溝より古い）、
4区1号竪穴状遺構（4区1号溝より古い）
- 15世紀：3区4号溝、5区1号溝
- 13世紀後半～15世紀：3区1号溝、4区1号溝

次に、小郡市内でこれまでに発見された中世の遺跡の多くは、掘立柱建物や井戸など生活に直結した遺構だけでなく、集落の境界や集落内の小区画を占める溝状遺構を多数確認しており、3区・4区・5区においても、調査区は異なるが同時代の溝を多数確認している。よって、これらの溝に関連性があるのか検討することとする。

まず、15世紀に比定できる3区4号溝と5区1号溝である。これらは、東西方向に伸びており、出土遺物もほぼ同時代を示すことから同一の遺構と想定できる。次に、13世紀後半～15世紀に比定できる3区1号溝と4区1号溝である。3区1号溝は東西方向、4区1号溝は南北方向に伸びているが、溝の上端幅等規模に共通性がみられ、出土遺物もほぼ同時代を示すことから、3区1号溝は4区と5区の間でL字状に南側に曲がり、4区1号溝へと続いていたと想定される。青磁が検出されることから13世紀代も考慮に入れたが、多くの遺物は14世紀後半～15世紀前半に比定でき、この時期に埋没していったと考えられる。最後に、3区2号溝と3区3号溝である。同じ調査区で検出した溝であり、3区2号溝は東西方向、3区3号溝は南北方向に伸びていることから、当初、関係性はないと想定していた。しかし、周辺の中世の遺構検出状況を踏まえ、報告書執筆段階で精査したところ、仮に3区3号溝を北側に延長した際、5区で検出されるはずの溝の続きが検出されないことから、5区と3区の間でどこかで溝が止まったか、曲がった可能性が想定された。曲がったと想定した場合、3区2号溝が、3区3号溝とほぼ同時期を示し、遺構幅等規模に共通性が見られた。よって、3区3号溝は4区と3区の間でL字状に東側に曲がり、3区2号溝へと続いていたと想定される。

以上を踏まえ、3区・4区・5区の遺構変遷を時代順に追うと、第16図のとおりとなる。これまで、大保西小路遺跡周辺は14世紀以降に集落が出現する地域とされてきたが、12世紀中頃～13世紀前半に土地を区画すると想定される区画溝（3区2号溝・3区3号溝）を検出できており、本遺跡の東側に広がる大保龍頭遺跡や大保横枕遺跡のように土地利用があったことが窺える。この溝が埋没した後により大きな土地を区画すると想定される区画溝（3区1号溝・4区1号溝）を検出した。この大溝の内部には、土壙墓と考えられる遺構2基（3区2号土坑、3区3号土坑）を検出しており、墓域としての区画の可能性も想定される。また、この大溝の西側には、大きな土坑（4区2号土坑）を検出した。大保西小路遺跡2でも14～16世紀に比定できる大きな地下式坑が3基検出されており、時期も一致することから、類似した機能を持っていたと考えられる。北側に土地を区画すると想定される大溝（3区4号溝、5区1号溝）は、上層から下層まで15世紀に比定できる遺物が埋土中より出土していることから、15世紀に埋まっていったと想定できる。この溝からは、3区4号溝において鉄滓を検出しており、この遺構のすぐ南側に隣接して炉を2基検出した。炉からは土器の小片が数点しか出土していないが、大保西小路遺跡1より、14世紀中頃～15世紀に比定される鍛冶関連に使用されたと想定される遺構や鞆羽口や鋳型片といった遺物、鉄滓が発見されており、関係性が想定される。大保西小路遺跡包蔵地内について発見されている鍛冶関連遺構に関する考察は、大保西小路遺跡3の報告書で行う予定であるため、そちらをご参照いただきたい。

今回の調査区は、矮小ではあったが、大保西小路遺跡においても土地の区割りに用いたと想定される区画溝を検出でき、大保区における中世の歴史的解明の一助となれば幸いである。



第 16 図 大保西小路遺跡 3・4・5 遺構変遷図 (S=1/400)

出土遺物観察表

1. 石器

<大保西小路遺跡4>

挿図番号	図版番号	出土遺構	種類	計測値				備考
				長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	
9-21	2-18	2号土坑	砥石	6.1	5.5	3.9	150.0	砥面4面

<大保西小路遺跡5>

挿図番号	図版番号	出土遺構	種類	計測値				備考
				長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	
14-7	2-37	1号溝	砥石	5.4	3.9	1.5	33.0	砥面3面

2. 鉄器

<大保西小路遺跡4>

挿図番号	図版番号	出土遺構	種類	計測値				備考
				長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	
9-22	2-19	2号土坑	不明鉄器	5.8	2.5	0.2	21.4	

3. 土器

法量=口:口径、高:器高、底:底径 器種=土:土師器、須賀:須恵質土器、瓦質:瓦質土器

<大保西小路遺跡5>

挿図番号	図版番号	出土遺構	器種	法量cm (復元値)	色調	胎土	焼成	調整	残存率	備考
14-1	2-31	1号掘立柱建物	土・すり鉢	底:(13.8) 高:6.55	外:黒(10YR1.7/1) 内:灰白(10YR8/1)	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良	外:磨滅、ハケメ、ヨコナデ 内:ハケメ	胴下~底約1/5	外面全面にコゲ付着 内面に「4本1単位」のすり目あり。
14-2	2-32	1号溝	土・皿	底:4.6 高:1.5	外:にぶい黄橙(10YR6/3) 内:にぶい黄橙(10YR6/3)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:ナデ 内:ナデ	胴~底約1/1	底部は回転糸切り
14-3	2-33	1号溝	土・すり鉢	高:4.7	外:にぶい黄橙(10YR7/3) 内:にぶい黄橙	2mm以下の砂粒をやや多く含む	劣	外:磨滅、ハケメ 内:すり目	胴下~底小片	内面に「5本1単位」のすり目あり。
14-4	2-34	1号溝	土・鍋	高:5.2	外:にぶい橙(7.5YR6/4) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:ナデ、磨滅 内:ハケメ	口~胴上小片	外面胴部にコゲ付着。
14-5	2-35	1号溝	土・鍋	高:5.3	外:淡黄(2.5YR8/3) 内:浅黄橙(10YR8/3)	2mm以下の砂粒をやや多く含む	良	外:ナデ、押さえ、ハケメ 内:ハケメ	口~胴上小片	
14-6	2-36	1号溝	土・湯釜	高:3.0	外:にぶい黄橙(10YR6/3) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:ナデ 内:磨滅	胴小片	

<大保西小路遺跡4>

挿図番号	図版番号	出土遺構	器種	法量cm (復元値)	色調	胎土	焼成	調整	残存率	備考
8-1	2-1	2号土坑	土・皿	口:13.3 底:8.4 高:2.7	外:橙(5YR6/6) 内:橙(7.5YR6/8)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口~底約1/1	底部は糸切り。
8-2	2-2	2号土坑	土・皿	口:13.5 底:8.6 高:32.6	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口~底約1/1	底部は糸切り。
8-3	2-3	2号土坑	土・皿	口:13.2 底:8.6 高:3.4	外:橙(5YR6/6) 内:橙(5YR6/8)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口~底約3/4	底部は糸切り。
8-4	2-9	2号土坑	土・皿	底:(8.8) 高:2.75	外:にぶい黄橙(10YR7/3) 内:にぶい黄橙(10YR6/3)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴~底約1/4	底部は糸切り。
8-5	2-4	2号土坑	土・皿	口:(11.1) 底:(7.6) 高:3.4	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内:にぶい黄橙(10YR6/4)	1mm以下の微砂をかなり多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ、ナデ	口~底約1/2	底部は糸切り、後、板押し。
8-6	2-17	2号土坑	土・皿	口:(11.6) 底:5.8 高:3.2	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	2mm以下の砂粒を多く含む	良	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	口~胴約1/4 底完形	底部は糸切り。
8-7	2-5	2号土坑	土・皿	口:9.1 底:7.8 高:1.4	外:にぶい黄橙(10YR7/3) 内:にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口~底約3/4	底部は糸切り、後、板押し。
8-8	2-10	2号土坑	土・皿	口:(9.7) 底:(8.3) 高:1.2	外:灰黄褐(10Y5/2) 内:にぶい黄褐(10YR5/3)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口~底約1/6	底部は糸切り。
8-9	2-8	2号土坑	土・皿	口:(15.4) 底:(13.2) 高:1.8	外:にぶい黄橙(10YR6/3) 内:にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の砂粒をやや多く含む	良好	外:回転ナデ 内:回転ナデ、磨滅	口~底約1/4	底部は糸切り。
8-10	2-6	2号土坑	土・皿	口:(9.8) 底:6.2 高:1.25	外:にぶい黄橙(10YR6/3) 内:にぶい黄橙(10YR6/4)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	口~胴約1/4 底完形	底部は糸切り。
8-11		2号土坑	土・皿	口:(9.0) 底:(6.4) 高:1.5	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の砂粒を少し含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口~底約1/4	底部は糸切り。
8-12	2-11	2号土坑	土・皿	底:(6.4) 高:1.0	外:にぶい黄橙(10YR7/3) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口~底約1/4	底部は糸切り。
8-13	2-12	2号土坑	土・皿	高:0.5	外:にぶい黄橙(10YR5/3) 内:にぶい黄橙(10YR5/3)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	底小片	底部に穿孔(内一外)あり。
8-14		2号土坑	須賀・すり鉢	底:(13.0) 高:4.9	外:灰(5Y5/1) 内:灰黄(2.5Y7/2)	1mm以下の微砂を少し含む	良	外:ハケメ、ナデ 内:ナデ	胴下~底約1/5	内面にすり目あり。
8-15	2-13	2号土坑	土・すり鉢	口:(24.6) 高:6.4	外:浅黄(2.5Y7/3) 内:灰黄(2.5Y7/2)	2mm以下の砂粒をやや多く含む	劣	外:磨滅、押さえ 内:ナデ、ハケメ	口~胴上約1/6	内面に「5本1単位」のすり目あり。
9-16		2号土坑	土・鍋	高:4.7	外:黒褐(10YR3/1) 内:にぶい黄褐(10YR5/3)	5mm以下の砂粒をやや多く含む	良	外:ヨコナデ、ナデ 内:ハケメ	口~胴上小片	外面に一部コゲ付着。
9-17	2-14	2号土坑	土・鍋	高:5.5	外:にぶい黄褐(10YR5/3) 内:にぶい黄褐(10YR5/3)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ハケメ	口~胴上小片	
9-18	2-15	2号土坑	土・鍋	口:(21.6) 高:6.55	外:黒褐(10YR3/1) 内:にぶい黄褐(10YR5/3)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:ヨコナデ、ナデ 内:磨滅、ハケメ	口~胴上小片	外面全面にスス付着。
9-19	2-16	2号土坑	土・鍋	口:(33.2) 高:6.0	外:黒褐(10YR3/1) 内:にぶい黄橙(10YR5/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:ヨコナデ、磨滅 内:ハケメ	口~胴上約1/2	外面全面にコゲ付着。
9-20	2-17	2号土坑	石鍋	口:(32.6) 高:12.6	外:黒~灰白(7.5YR2/1~2.5Y7/1) 内:灰褐(7.5YR5/2)	-	-	外:調整痕 内:磨滅	口~胴約1/5	内外面にコゲ付着。 内面はやや被熱を受けている。
9-23		4号土坑	土・鍋	高:2.75	外:黒(10YR2/1) 内:にぶい黄褐(10YR5/3)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:ナデ、磨滅 内:磨滅	口~胴上小片	外面全面にコゲ付着。
9-24		1号竪穴状遺構	土・皿	口:(8.6) 底:(5.6) 高:1.7	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:ナデ	口~底約1/4	底部は糸切り
10-25	2-21	1号溝	土・皿	口:(9.1) 底:(6.8) 高:1.9	外:灰黄褐(10YR4/2) 内:灰黄褐(10YR4/2)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口~底約1/4	底部は糸切り
10-26	2-23	1号溝	土・皿	口:(9.1) 底:(6.8) 高:2.0	外:灰黄褐(10YR4/2) 内:黒褐(10YR3/2)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口~底約1/4	底部は糸切り
10-27	2-22	1号溝	土・皿	口:(8.5) 底:(6.8) 高:1.4	外:浅黄橙(10YR8/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:ナデ 内:回転ナデ	口~底約1/6	底部は糸切り
10-28	2-20	1号溝	土・皿	底:5.6 高:2.5	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴約1/2 底完形	底部は糸切り
10-29	2-28	1号溝	須賀・すり鉢	高:6.0	外:黄灰(2.5Y5/1) 内:灰(5Y4/1)	1mm以下の微砂を多く含む	劣	外:磨滅 内:磨滅	口~胴上小片	内面にすり目あり。
10-30	2-24	1号溝	土・鍋	高:4.5	外:灰黄褐(10YR5/2) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を多く含む	劣	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、ハケメ	口~胴上小片	
10-31	2-27	1号溝	土・鍋	高:6.9	外:にぶい黄褐(10YR5/3) 内:にぶい黄褐(10YR5/3)	1mm以下の微砂をかなり多く含む	良	外:ヨコナデ、ナデ 内:ハケメ	口~胴上小片	外面全面にコゲ付着。
10-32	2-26	1号溝	土・鍋	高:3.8	外:黒(10YR1.7/1) 内:にぶい黄褐(10YR5/3)	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良	外:ハケメ 内:ヘラ削り	口~胴上約1/5 胴下~底約1/2	底部端部外面にコゲ付着。 底部に穿孔(外一内)あり。
10-33	2-30	1号溝	瓦質・湯釜	口:(18.8) 高:16.3	外:灰黄褐(10YR5/2) 内:褐灰(10YR4/1)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:ナデ、ハケメ 内:ハケメ	口~胴下約1/3	内面にスス付着。 外面に2個1対のスタンプあり。
10-34	2-29	1号溝	青・碗	口:(15.5) 高:5.1	外:オリーブ灰(10Y5/2) 内:オリーブ灰(10Y5/2)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	口~胴約1/5	

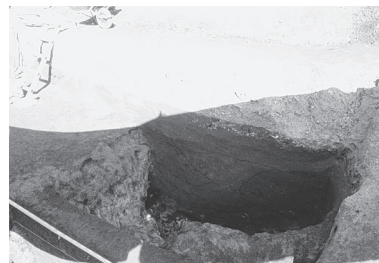
図版 1



①調査区全景（東側から）



②2号土坑南北ベルト土層断面（西側から）



③1号溝、3号・4号土坑北壁土層断面（南側から）



④1号竪穴状遺構、1号溝南壁土層断面（北側から）



⑤2号土坑完掘（北側から）



⑥1号溝ベルト土層断面（南側から）



⑦1号竪穴状遺構完掘（北側から）

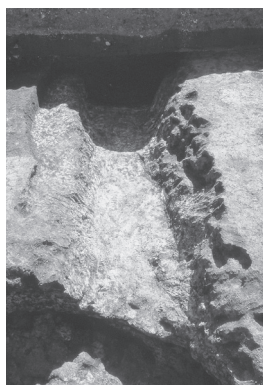
大保西小路遺跡4 大保西小路遺跡5



⑩調査区全景（東側から）



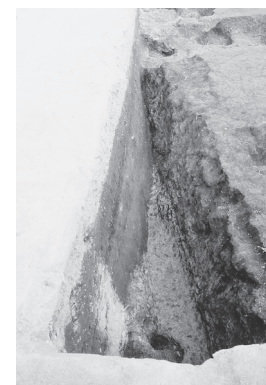
⑧3号・4号土坑完掘（東側から）



⑨1号溝完掘（北側から）



⑪1号掘立柱建物
1号土坑完掘（東側から）



⑫1号溝完掘（西側から）



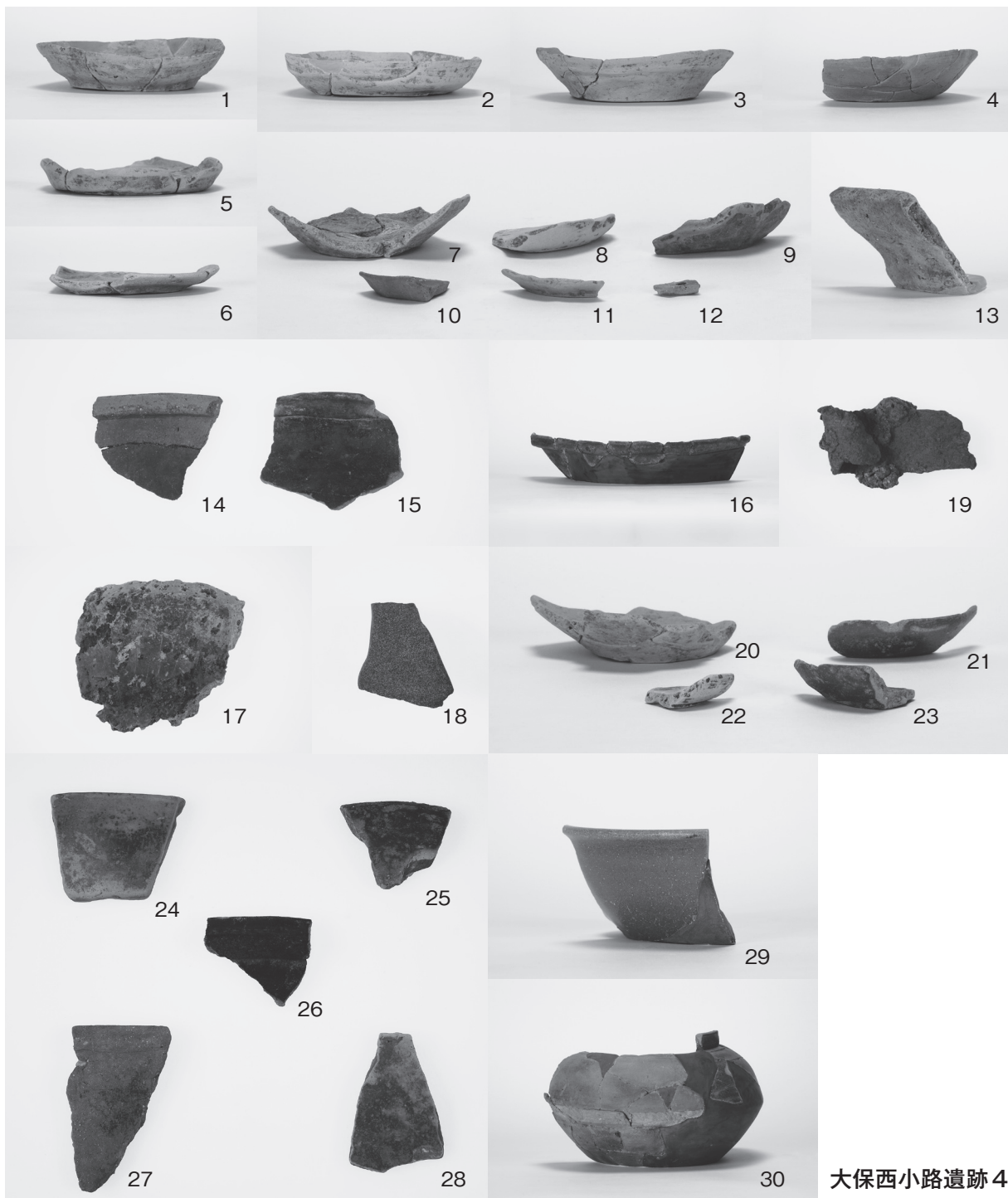
⑬1号溝完掘（東側から）



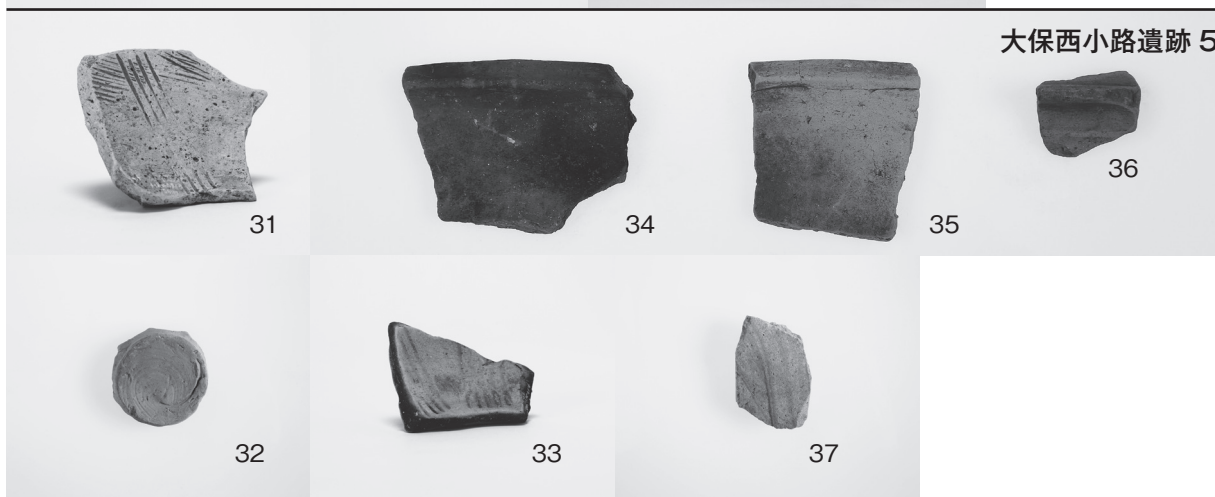
⑭1号土坑南壁土層断面（北側から）



⑮1号溝ベルト土層断面（西側から）



大保西小路遺跡 4



大保西小路遺跡 5

報告書抄録

ふりがな	おおほにししょうじいせき4・5							
書名	大保西小路遺跡4・5							
副書名	福岡県小郡市大保所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第301集							
編著者名	西江 幸子							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在地	〒838 - 0198 福岡県小郡市小郡 255 - 1 Tel. 0942 - 72 - 2111							
発行年月日	平成28年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおほにししょうじ 大保西小路 いせき 遺跡4	福岡県 小郡市 おおほ 大保	40216		33° 24' 45"	130° 33' 31"	2014. 10. 8) 2014. 10. 24	51. 41 m ²	宅地開発 工事
おおほにししょうじ 大保西小路 いせき 遺跡5	福岡県 小郡市 おおほ 大保	40216		33° 24' 45"	130° 33' 31"	2014. 10. 30) 2014. 11. 13	56. 88 m ²	宅地開発 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
大保西小路 遺跡4	集落	中世	土坑 溝 竪穴状遺構	土師器、瓦質土器 須恵質土器、青磁 石器、石製品 鉄器				
大保西小路 遺跡5	集落	中世	掘立柱建物 溝 土坑	土師器 石器				
要約	<p>4次調査では、3次調査に続く区画溝を検出し、2次調査で発見された土坑と同規模の土坑を検出した。</p> <p>5次調査では、3次調査に続く区画溝を検出し、調査区南側では掘立柱建物に成り得るピット列を確認した。</p>							

大保西小路遺跡4・5

小郡市埋蔵文化財調査報告書第301集

平成28年3月31日

編集 小郡市教育委員会
福岡県小郡市小郡 255 - 1

発行 片山印刷有限会社
福岡県小郡市祇園1丁目8-15